

変化の時代の自己革新

西大和学園高等学校

3年生

眞鍋

一希

一日一日が変化の時代、などという言葉はありふれたものかもしれませんが、世の中は目まぐるしく変わっているという事は、紛れもない事実です。実際、僕が小さい頃には、スマートフォンが登場して人々の生活が大きく変わり、AIが人間に取って代わりつつある、ということとは想像もつかなかったことだと思えます。そしてどうやら5年後には車が空を飛ぶようです。現代は、日々の革新に胸を躍らせながら生活できる社会といえます。

その社会の中で、これから私達は主役になつていきます。時代をつくるのは私達です。時代の流れに流されないようにするのではなく、流れを作るに、大きな岩を動かしたり、地面を掘り起したりといったことが必要になります。途方

も無いことです。一人では到底無理でしょう。一人で時代を変えるというのは、相当な労力が必要かつ無謀。時代の流れを変えることはそうかんたんにはいきません。やはり流れに流されるしかないのか。しかし、そこに一人の協力者がいればどうでしょうか。一人では動かさなかつた岩も、二人いればなんと動かせるかもしれません。自分にはなかつた知恵や人脈をその人は持つていて、それはきつと役に立つでしょう。三人目、四人目と輪が広がって、ついに流れを変えられるかもしれません。時代の流れを作るには、協力者は欠かせません。様々な世代を経歴、人種の人々が、それぞれのアイデアを持ち寄り、交換し、刺激し合い、協力して新しいものを作っている社会では、とんでもない変革の種が眠っています。せっかく、いつでもどこでも繋がれる環境が整っています。最前線を肌で感じ、革新を横で見ただけでなく、自らその渦の中に身を置ける社会になっ

、

。

。

てほしいと思います。また、そのような社会  
を作っていることこそが、これからの私達に  
求められることです。  
そこで、自ら渦の中に飛び込んでいく姿勢  
が必要となってくるのですが、自らが最先端  
に当たり、刺激し合うというのは、やはり労  
力がいられます。アイデアというのは、なかな  
か湧き上がってくるというものでもありませ  
ん。時代を引っ張っていく人たちは、やはり  
ずば抜けた才能や運があつて、自分より一枚  
も二枚も上だと考えてしまうのは自然なこと  
だと思えます。  
ただ、これから活躍していくためには、ど  
うしてもアイデアは必要だと思えます。自分  
の頭の中に新たな知識や経験をどんどん入れ  
ていく。それを新たなアイデアに作り変えて  
いく、といったプロセスになります。これ  
がなかなか難しい。たくさんの方がこれと同  
じようなことを言っていると思えます。しか  
し、私にはどうしても実践しようとしても、

アイデアは浮かんできませんでしたし、その  
必要性にすら実感が持てていませんでした。  
しかし、ある日、私はふと、将来は自分の  
会社を持ちたいと思いました。自分で立ち上  
げた仕事を自分の責任でもって取り組むこと  
に、大きな魅力を感じました。もちろん、は  
じめはアイデアなんて浮かびません。ただ、  
物の見方が変わりました。どうすれば儲かる  
ビジネスを運営できるのか。それは身の回り  
の問題を見つめることから始まりました。す  
ると、身の回りには、案外多くの、あつたら  
いいなと思えるもの、もう少しこうしたほう  
がいいなと思うものがありました。時代につ  
いていけていない人たちが時代の最先端とつ  
なぐだけでも、立派なビジネスとして成功し  
ている企業は数多くあります。さらに、起業  
家の事例を調べるようになりました。中には  
高校生や大学生で起業した方も多く、その方  
々の実績に触れていくうちに、身近に、様々  
な所から刺激を受けられるようになってきたと思

、

います。毎日読むインターネットの記事一つでも、アイデアのヒントが散りばめられていますように思えてきました。日常でも、家族や友人が欲しているものは何なのかを考えるようになりました。何より私の中で変わったこととは、問題は、チャンスであるという意識が生まれたことでした。世の中の問題を探してどうすれば解決できるのか、どうすればビジネスになるかを考えるようになりました。これは頭の中の話に過ぎないかもしれませんが、しかし、起業を考えることによつて、私の頭の中に革新が起こったのは事実だと思えます。世の中の問題を考えることによつて、私の目指す姿である、時代を引っ張ることができる存在に少し近づけたのではないかと、そう思います。これからも、もっと違ったアプローチで、様々な経験をして、アイデアを生み出せる人間になっていきたいと思えます。